

1 政策内容

本チームは、登別で働く子育て世代のはじまりの場、お試し住環境「ONIKANA」の政策提言を行った。名称は鬼に金棒の略で、市外の働く子育て世代を鬼、お試し住環境を金棒に例えている。政策内容は、登別市内の廃校を、移住を検討する働く子育て世代向けのお試し暮らし住宅「ONIKANA」として活用し、登別での暮らし体験や、子どものお試し地域留学を実施するというものだ。施設にはカフェ等の娯楽施設を備えて地域住民の利用を促進し、移住検討者と地域住民との繋がり場の場としての役割も担う。「ONIKANA」の利用を通じて移住検討者には登別の魅力や雰囲気を実感して移住への不安を解消し、子どもの地域への適性を判断する機会を、登別市民には、第三者の視点に触れることによって今まで気付かなかった登別の魅力を発見する機会の創出を図る。

2 現状と目的

私たちは事前調査から、登別は温泉地以外のエリアに観光客が訪れない点、家族向けのお試し暮らし住宅がない点の2点を問題点と見た。これらの問題を解決するために移住後、登別でのリアルな生活を知るため、親が、子どもが地域になじめるかを判断するために、市内外の子育て世代の交流の機会を作るということを目的とし「ONIKANA」を提案した。

3 施設概要

施設は大きく分けて3つで構成されている。1階はカフェなど日中、町の人々が気軽に遊びに来ることができたり、親が働いたりすることのできるワークスペース、2階は、エステやジムなど登別の住民やお試し暮らし住宅に住む人々が日常的に通うことのできる場所、3階はお試し暮らし住宅として、市の外の人々が暮らせる部分とする。このように構成することで、自然に登別に住む人と移住を考えている市外の人々が交流することができる。

4 ONIKANAの1日

私たちが想定しているお試し暮らしの1日は、朝夜は親子ともにONIKANA内の飲食店で自由に食事をし、昼は親はONIKANA内のコワーキングスペースで仕事をしたり、街歩きをしている間、子どもはももんがくらぶで登別市民と交流をしながら自然体験ができるようになっている。

5 ONIKANAによる効果

ONIKANAによる効果は主に3つ考えられる。1つ目は、よりリアルな登別市の暮らしの体験が可能なことである。お試し暮らし住宅が観光地エリアではなく地域住民の生活エリアに立地することで、より現実的に登別市で暮らすイメージができると考えられる。2つ目は、生活エリアでお試し移住をすることで、移住体験者本人や家族が登別の地域コミュニティの一員となるイメージを掴むことができることである。3つ目は、廃校という大きな廃墟が無くなることで、安全性や住民の安心感、景観の改善にもつながることである。

6 プロセス

必要なプロセスは主に4つだ。まずは、宿泊施設運営のため、資格取得が必要だ。次に、設備改築のための資金の調達が必要だが、他の事例からも、国や自治体の様々な補助が期待できるため、資金面の解決が可能となる。そして、運営は地域おこし協力隊と地元の有志による協議会が行う。また、宣伝ではのぼりべつ酪農館を参考にクーポン配布などを行い幅広い集客を目指す。

7 収支

過去の類似事例から、修繕費は約2200万円と試算される。これは、過疎地域等自立活性化推進交付金等、多くの公的な補助により賄うことが可能だと考える。また、維持費、光熱費と運営への謝礼として約200万円の支出が想定されるため、1家族、1泊宿泊費5000円(朝食付)として400世帯の宿泊を目標とする。

8 課題解決

地元市民の集客が課題であるが、学校で定期的にクーポンを配布するなどして格安でのカフェ利用を可能とし、他にはない個性を作る。またカフェ以外での利用も可能とする。持続可能性については、空き教室を今後のニーズに合わせて地域に密着した運営を行うこと、安定的に交流人口を確保することで解決が可能となる。

9 まとめ

私たちはこの「ONIKANA」でお試し暮らし住宅・地域留学を行うことによって、地域住民との繋がりが生まれ、リアルな暮らしを体験することで不安を解消することができ、移住のハードルが下がると考えている。そしてこの体験は働く子育て世代の定住のはじまりに繋がり、これがまちの活性化にも繋がるだろう。

オニカナ



ONI KANA



～登別で働く子育て世代のはじまりの場～

立教大学 チームぽーる

政策内容

登別で働く子育て世代のはじまりの場

「 **ONIKANA** 」

鬼（＝市外の意欲ある働く子育て世代）に
金棒（＝お試し住環境）を

ONI KANA の役割

1 登別への移住を考える働く子育て世代のお試し暮らし住宅

廃校を活用した施設を宿泊の場として利用（例：高知県「集落活動センター であいの里 蛭川(みながわ)」のような宿泊施設）

2 登別への移住を考える家庭の子どものお試し地域留学

NPO法人モモンガくらぶが運営する自然体験学習施設「登別市ネイチャーセンターふおれすと鉱山」に、参加する子どもの預かりと自然体験学習を委託。親が仕事や登別市の視察をしている間に地元子どもたちと一緒に活動に参加することで、登別の自然について学習したりする。

3 地域住民との繋がり場

移住検討者と登別市民が関われる機会を創出し、移住検討者にとっては登別の人々の空気感や地域の魅力をリアルに体感して移住への不安を解消できるように、登別市民にとっては第三者の視点に触れることで今まで気づかなかった登別の魅力を発見できるようにする。

4 地域の人々の仕事、趣味の場（将来的に）

将来的には、ONI KANAを地域の人々のコワーキングスペースや、レンタルスペースやジムなどの趣味を楽しむための場所として活用し、地域住民のワークライフバランスを実現するための施設とする。

現状と目的

〈現状〉

- ・ 観光地以外の登別市を見る機会がない
- ・ 家族向けのお試し暮らし住宅がない

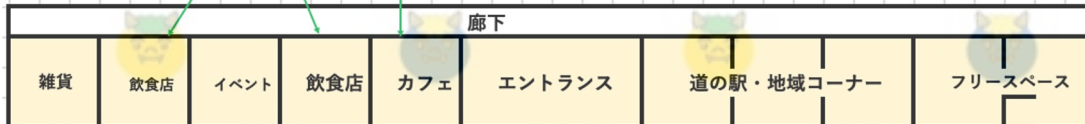
〈目的〉

- ・ 登別のリアルな生活を知るため
- ・ 親が、子どもが地域に馴染めるかの判断するため
- ・ 市内外の子育て世代の交流の機会
(市内：登別の魅力発見 市外：子育て世代とのつながり)

施設概要

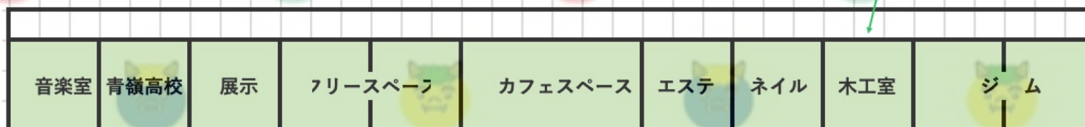
1F

日中は一般向けに営業。子どもも入れる！



2F

DIY・プラモデル制作スペースとして貸出

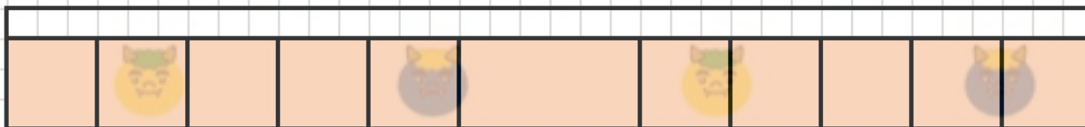


楽器練習の場として貸出

QOL向上

木工室を再利用

3F お試し暮らし住宅



4F 将来的に住民の趣味の場所として活用



ONIKANA お試し暮らしの1日

朝

昼

夜

親

- ・朝食
(ONIKANA内のカフェで食べる
or
地域のお店で市民と交流)
- ・準備をして勤務開始

- ・ONIKANA内のコワーキングスペースで仕事
- ・ONIKANA内のカフェで昼食
- ・物件内覧

- ・合流して夕食
(ONIKANA内で食べるor
地域のお店で市民と交流)
- ・教室を利用した部屋で就寝

子

- ・親とともに朝食を済ませ、
準備をしてももんがクラブへ

- ・モモンガクラブで地元の子どもたちと一緒に自然体験🍁
- ・登別市民との交流



👹 ONI KANA 👹による効果

①よりリアルな登別の暮らしの体験

お試し暮らし住宅が、観光エリアである温泉街ではなく生活エリアに立地することで、登別市で生活するイメージをつけることができる。

②移住に対する不安の軽減

自分や家族が登別でコミュニティの一員となるイメージができる。

③まちの活性化

廃墟がなくなることで、景観や安全性が高まる
イベントの開催や施設の利用を通してまちが盛り上がり、新しいつながりも生まれる

ONIKANA 実現までのプロセス

・資格

施設を設け、宿泊料を受けて、人を宿泊させる営業で、宿泊する場所を多数人で共用する構造及び設備を主とする場合に必要「簡易宿所営業」の資格取得

・資金

過疎地域等自立活性化推進交付金
スポーツ振興くじ(toto)助成(地域スポーツ施設整備助成)
デジタル田園都市国家構想交付金
+道と市の補助金

・運営

地域おこし協力隊と地元の有志⇒協議会を作って運営を行う

・宣伝

市民に対して：カフェの割引券やドリンク無料券を配布する
ex.)登別酪農館ではソフトクリーム無料券を3000枚配って約1500人が来店

市外の人に対して：ふるさと回帰支援センター@有楽町でのチラシ配布



収支

修繕費2200万

過疎地域等自立活性化推進交付金

スポーツ振興くじ(toto)助成 (地域スポーツ施設整備助成)

デジタル田園都市国家構想交付金

道と市の補助金

維持費光熱費と運営への謝礼200万

1家族 一泊宿泊費 朝食付き5000円として400世帯呼ぶことが目標

課題と解決策

○地元市民の集客

- ⇒ ・ 格安でカフェ利用（学校で定期的にクーポン配布）
- ・ 他にはない個性
- ・ カフェ以外での施設の利用

○持続可能性

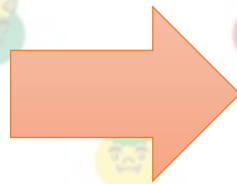
- ⇒ ・ 空き教室が多くあるため、今後ニーズに合わせて、より地域に密着した運営が可能
- ・ 移住だけでなく、安定的に交流人口を確保できる

まとめ

～登別で働く子育て世代のはじまりの場～

「 **ONIKANA** 」では...

- ・ お試し暮らし住宅
- ・ お試し地域留学
- ・ 地域住民とのつながりの場



- ・ リアルな登別の暮らしの体験
- ・ 移住への不安解消
- ・ まちの活性化が可能に